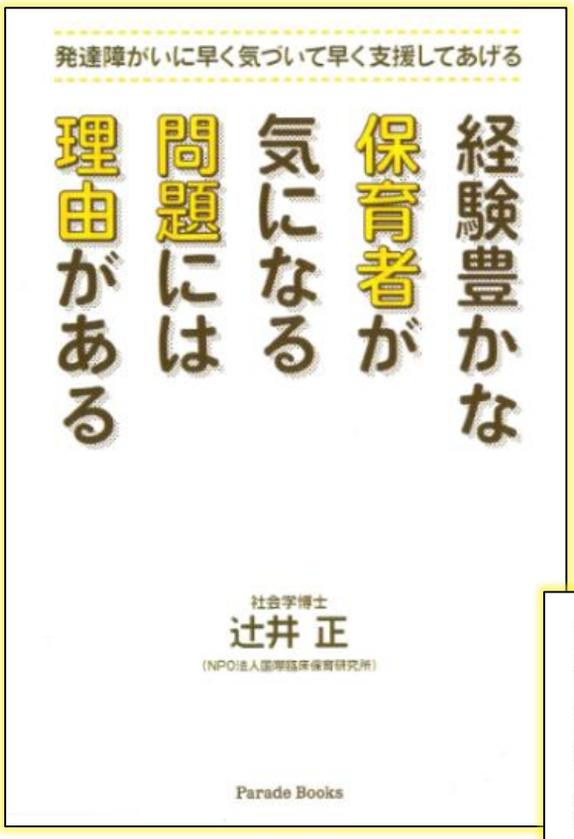
KICCC

発達障がいの原因を脳障害（医療的）ではなくて、脳の働き方（保育）としてとらえ発達支援する臨床的な障がい児保育論

発達障がいに早く気づいて早く支援してあげる

『経験豊かな保育者が気になる問題には理由がある』

保育という臨床の場から書かれた実践書



定　価：2,300 円+税

第 1 章：発達予防と発達予測保育

第 2 章：なぜ、発達障がい児が増えているのか？

第 3 章：発達予防という考え方

第 4 章：情緒や関わり方の変化を観察する

第 5 章：個別の支援が必要な子どもたち

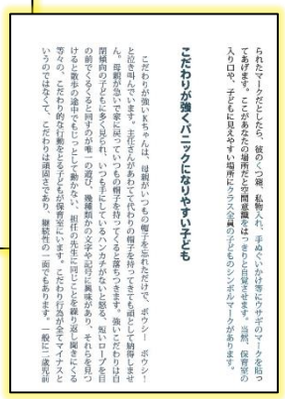
第 6 章：発達障がいに早く気づく検査法

第 7 章：担任が頭を痛める子どもへの具体的対応

第 8 章：愛情不足が発達障がい児になるのですか？

まとめの言葉

（A6判　145 ページ）



こだわりが強くパニックになりやすい子ども

こだわりが強いA ちゃんは、母親がいつもの帽子を忘れただけで、ボウシー　ボウシーと泣き叫んでいます。主任さんがあわてて代わりの帽子を持ってきても頑としてきません。母親が急いで家に戻っていつもの帽子を持ってくると落ちつきます。強いこだわりは自閉症的の子どもに多く見られ、いつもそばにしているハンカチがないと怒る、強いロープを自の前でくくると同すのが唯一の遊び、幾種類かの文字や記号に興味があり、それらを見つけると歌歩の途中でもじっと動かない、担任の先生に同じことを繰り返し聞きにくる等々の、こだわり的な行動をとる子どもが保育園にいます。こだわり行為が全てマイナスというのではなくて、こだわりは頑固さであり、継続性の一面でもあります。一般に一歳児前

社会学博士　辻井　正

何故、発達障がい児が増えてきたのか？

- 発達診断の基準が幅広くなったから？
- 現代生活の１０数万種の合成物質（PCB）の一部が、胎児から３歳頃まで脳内に蓄積されている可能性？

発達障がい児に保育園を勧める理由

- 発達障がい児の表現や行動は一人ひとり異なっていますが、彼らのつまずき方は「関係性」という一点に集中されています。それ故に保育のハードルを低くしてあげることで関わりの体験が増えます。

早く気がつけば発達障がいの多くは予防の可能性があります

- 発達的リスク（危険因子）は乳児期の遊びから観察できます。
- ２～３歳までの「脳の可塑性」の研究が進み、早く支援することで子どもの知能や情緒の改善が報告されています。

発達障がいに早く気づく検査法（０歳～５歳）

- 医療的な検査や心理的な発達検査は、子どもの特定した部分を標準的に比べることで診断や判定が行なわれています。しかし、子どもの個性や表現が一番現われやすい遊びや生活からの検査法が大切です。０歳～５歳までの遊びの検査法がイラストで描かれています。
- 「日常生活(家庭や保育園）の行動の中で、子どもが環境との関係で行動に現わす発達を評価することが、今後の発達検査法に求められていると米国のテイーザート博士は主張しています。（1974 年）」